



Vol 8

横浜市戸塚区民文化センター
さくらプラザ 情報誌



©Kazuhiko Suzuki

SAKURA

PLAZA



インタビュー

西江 辰郎

SAKURA ONLY KNOWS ブランチコンサート Vol.10 夢へとつづく 晩秋の道 北村 朋幹

RECOMMENDED ARTIST

エッセイ | 柳家小せん

筆の向くまま

戸塚出身の小せん師匠が、扇子をペンに持ち替えて

レポート | 駆が駆ける

フルーツ狩りに行ってきました!編



SAKURA
PLAZA



西江
に
し
え

辰郎
た
つ
お

ヴァイオリンとともに
歩んできた道

「午後の名曲散歩」第3回はヴァイオリンの名曲をお届けします。現在、新日本フィルハーモニーのコンサートマスターを勤めながら、室内楽や録音などでも積極的に活動している西江辰郎さん。ヴァイオリンの魅力から音楽家としての取り組みについてなど、様々なお話をうかがいました。

—西江さんにとってヴァイオリンの魅力といふのは、どんなところですか？

音楽的にも技術的にも限界が見えないというところでしょうか。自分で模索しながら勉強していくということも魅力のひとつだと思います。例えは見えない壁に行きあたって「これ以上、このままだ出来ないな」というのが、実は違う方法で可能性があつたりする。何年やっていても、まだまだ自分で新しい発見もあるし、勉強し続けなければという思いがあります。

—なるほど。ヴァイオリンを始めたきっかけは？

僕の母はピアノを教えていて、父はクラリネットを吹いていました。ですから家に音楽があるということが、あたりまえの環境で育つたので、気付いた頃にはヴァイオリンを弾いていましたね。うちの父も母もヴァイオリンが好きだったんですよ。近所にもピアノやらお琴やら、三味線、エレクトーンなどされている方がいたので、変な話、幼稚園へ行くまではみんな音楽をやっているものだと勝手に思っていました。「えっ？みんなヴァイオリン弾いてるんじゃないの？」という感覚がったんですね(笑)。

—小さな頃からご家族で一緒に演奏をされていたのでしょうか？

家では父の友人やご近所の方々を呼んで、ミニコンサートをよくしていましたね。「壊れたクラリネット」などを、父が吹くわけですよ(笑)。誰かと一緒にアンサンブルするのは小さい頃は単純に楽しかったですね。

—その頃はどんな練習をされていましたか？

僕の場合は遊んだ後に練習でした。機械的

な反復練習や、マニアックな事に凝った時期もありましたが、今思えばもっと賢ければ……という感じですね。夕方の鐘が鳴ったら家へ帰る練習しなきゃと。練習に抵抗はなかったです。他に水泳などへ通っていたこともありますけど、職業として考えた場合、プロとして現役でいられる期間が短いじゃないですか。音楽はそういう意味では時間が長い。父からは「何時いつまで頑張れば、あとはいいから」ってずっと言われていたんですよ。「高校、大学入るまで頑張れば」とか。最終的に「30歳過ぎるまで頑張れば、あとはもう何も言わない」と言わされたんです。そのままずっと続けていますが、ある時、父に「30歳過ぎたけどもう頑張らなくていいの？」と聞いたら「ダメだ、一生だ」って(笑)。

—そんな環境の中で、プロになろうと意識されたのはいつ頃ですか？

中学の初めですね。小学生の頃はスポーツなんかが出来れば女の子にモテるみたいなどころがありますけど、中学へ入ると、年上の友達は「遊ぼう」と誘いにいっても「勉強、勉強」で急に遊んでくれなくなったりしますよね。みんなが「自分は将来何になりたいのか」って急に悩み出す、そういう時期です。その頃、ヴァイオリンはずつと続けてきた事だったので、もちろん好きだったし、僕は「他の事で食べていく自信はありません」と考えました(笑)。やはり小学校の卒業文集などには「ヴァイオリニストになりたい」と書いています。

—今はどんな練習をされていますか？

昔の自分より今の自分は「賢い」とどこかで思いたい面があるので、無駄な練習をなるべくしないように心がけています。小さい頃はがむしゃらに練習していました。出来ない

ことに出くわしたら、ひたすらただ向かっていく。でも、その原因を理解して分析してそれを克服して壁を乗り越えるのと、原因を追究せずに、ただそこに盲目的に向かっていくのだと時間は無駄だし、悪い習慣も身につきますよね。そういう意味では今の方が練習の効率はいいかな。毎日もちろん練習していますけど、僕の場合は、決められた枠の中で物事をするのがあまり好きじゃないので、自分が集中出来ないなと思ったら、ちょっと他のことをして気分転換、それからまた練習して。それの繰り返しですね。

—ヴァイオリンを続けてきて、良かったことはどんなことがありますか？

小学校の頃はヴァイオリンを弾いている方は周りに殆どいませんでしたし、高校から音楽学校へ行くなどという人も、多分学年には2人とかで、非常に少なかったです。ですから、高校生以降、それまで自分と同じように音楽をやってきて、同じようなところで悩む人もいて、そういう意味での仲間が増えたことはとても嬉しかったのを覚えています。それに外国の方と知り合いになれたり、音楽をしてこなかつたらあり得なかつた出会いが沢山あると思うので、続けてきてよかったと思います。もちろん一緒に演奏出来たりとか。

—音楽を通じて、いろいろな出会いがあったのですね。

そうですね。もうひとつは、以前にコンサートに来てくれたお客様の中で、僕の演奏を聞いてその方の考え方や世界が変わったという方がいらっしゃいました。実際にはその方が人生の転機で「何か」を求めている時に、たまたま演奏したのが僕だったっていうだけの話なのですけれど、それによってその方の思いが良い方に変わったというのは嬉しいですよね。

—オーケストラでコンサートマスターとして、また室内楽でソリストとして演奏する時とは、どんな違いがあるのでしょうか？

基本的に一緒だと思います。ただ、オーケストラは大人数ですし、全体の音楽の流れを注意しながら、耳を澄まして演奏しなければというのはあります。そして、それが多岐にわたる。楽器の種類

も多いですし、各楽器とのタイミングやバランス……オーケストラ全体にわざわざながらでも自分の演奏が影響を及ぼすっていう意味で「責任が重い」ですよね。逆に、室内楽ではそれが少人数になればなるほど「自業自得」というか(笑)、自分のパートは自分一人で演奏するので精神的な感覺は違うかもしれません。

—コンサートマスターの難しさや面白さは、どんなところにあると思いますか？

まず大勢でしか出来ない音楽があって、仲間がいる。そこに信頼関係や、ひらめきみたいなものが混じる。さらには聴衆がいて、この独特な感覚も魅力の一つだと思います。それぞれのパートはそれぞれの人に任せられる面もありますけど、やはりあれだけの大人数になると、(楽譜も複雑にならなければなりません)それだけではなかなか統率がとれない。そこで指揮者が必要になってくる。そうした時に指揮者にも、もちろん音楽性があるし、演奏者側もそれぞれに個々の音楽性を持っていて、何かしら起るにはそれなりの理由がある。そこを全体としてどういうふうにまとめていくか、更には自分の音楽的センスが関わってくるのでややこしいですね。それだけやりがいがある立場という事だと思います。

—菊地裕介さん(ピアノ)との共演はいかがでしたか？



以前、共演させて頂いた時は、男同士、これはこれで楽しかった。学生時代から彼のピアノの評判はもちろん知っていましたが、初めて共演したのは1年半ほど前です。最初に比べればお互いの手の内もだいぶ見えてきた頃だと思うので、もうちょっと突っ込んだ表現も出来たらなと思います。

—今回のプログラムについては?

ヘンデルの「ソナタ(Op.1No.3)」は古典ですが、やっぱりその時代の良さがあると思います。またトゥリーナは政治的な理由もあり、世にでるのに時間がかかった時期がありました。ですから、演奏される機会が未だ少ないのですけれど、ファリヤと同じぐらい有名でもおかしくない作曲家です。今回は「ヴァイオリン・ソナタ(第2番Op.82「ソナタ・エスパニョーラ」)」を入れてみました。スペインものを中盤に入れて、後半にサン=サーンスの「ソナタ」を弾きます。僕が「今年はこれに取り組んでみたい」という曲を集めました。

—ご自身なりのテーマを毎年、立ていらっしゃるのですか?

テーマというわけでもないのですが、自分自身に課すところもあります。「こういうことが自分には足りないからこういうことを挑戦してみよう」と。メインの曲は「今年はこれを弾いてみたい」と思って組んでいくことが多いですね。例えばフランクのソナタ(※)も「聞くのは好きだけど、弾くのはまだ、弾くのはまだ……」と長年思っていて「弾いてみようかな」と思う年がなんなく自分の中であるんですよ。それがたまたま今回は、サン=サーンスでした。

—それでは最後に戸塚の皆様に一言お願いします。

ヘンデル、ファリヤ、それにサン=サーンス、スペインもの、フランスものを含む充実したプログラムを皆様にお届け出来ればと思っています。菊地さんとの駆け引きも楽しみに、是非、聴きにいらしていただければ嬉しいです。

—本日は貴重なお話、ありがとうございました。

(聞き手:佐々木愛理)

*1886年にベルギー出身のセザール・フランクが作曲したヴァイオリンとピアノのためのソナタ。フランス系のヴァイオリンソナタの最高傑作として有名。



西江辰郎(ヴァイオリン)
Tatsuo NISHIE, Violin

桐朋学園ソリスト・ディプロマ・コース修了。1988年から96年にかけて国内のコンクールに多数入賞。97年よりスイスへ留学。2001年24歳で仙台フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスターに就任。05年より新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。これまでに、日本フィル、大阪セントラル・オーケストラ・T・ヴァルガ、オーケストラ・アンサンブル金沢、チェコ室内フィルハーモニー管他、国内外のオーケストラと共に演奏。07年にはチェロのミッシャ・マイスキー氏、娘のリリー・マイスキー氏とピアノ・トリオで共演。09年にはダグラス・ボストック指揮アルガウ交響楽団のソリストとして、チューリヒのトーンハalleにてコンチェルト・デビューを果たす。02年に結成したセレーノ弦楽四重奏団の活動も高く評価されている。録音にも積極的に取り組み、『フランク&プロコフィエフ』(FOCD-9337)は朝日新聞紙上で推薦盤として取り上げられた。これまでにヴァイオリンを辰巳明子、故ティボール・ヴァルガ、景山誠治、藤原浜雄、海野義雄の各氏に、室内楽をガボール・タカーチ・ナジ、岡山潔、安永徹、市野あゆみ各氏に師事。

使用楽器はSantino Lavazza 1764年製。

■オフィシャルサイト

<http://homepage3.nifty.com/nishie-tatsuo/>

好評発売中

午後の名曲散歩Vol.3 西江辰郎
~洗練された感性、情熱のヴァイオリン~

11/26(水) 14:00開演／13:30開場
全席指定 2,000円

【出演】西江辰郎(Vn)、菊地裕介(Pf)

鈴木理恵子プロデュース 室内楽シリーズ Vol.1

ヴァイオリン珠玉の名曲集

12/14(日)

開演 15時 (開場 14時)

鈴木 理恵子 (Vn)
若林 順 (Pf)

エルガー：愛の挨拶
モーツァルト：ヴァイオリンソナタ第28番
ホ短調KV304
クライスラー：ウィーン奇想曲
：愛の悲しみ
：中国の太鼓
バラディス：シチリアーノ
ドヴォルザーク：わが母の教え給ひし歌
モンティ：チャルダッシュ
ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第9番
イ長調Op.47 「クロイツェル」



■チケット取扱い
さくらプラザ TEL.045-866-2501
ローソンチケット TEL.0570-000-407



レジデント・アーティスト募集 第1回「弦楽アンサンブル・オーディション」開催

～演奏家に音楽表現の場を提供し、音楽活動を通じて地域へ貢献するしくみ作り～
～区民がより充実した人生をおくるための上質な芸術文化にふれる機会の提供～
上記趣旨に基づき「さくらプラザ レジデント・アーティスト」を募集いたします。



□応募資格 国籍不問、30歳まで
□募集部門 「弦楽四重奏部門」「ヴァイオリン部門」「ヴィオラ部門」「チェロ部門」
□参加料 一組 5,000円(本選の参加料として)
□日程 本選:2015年2月14日(土)
□会場 横浜市戸塚区民文化センターさくらプラザホール
□審査員

鈴木 理恵子
(Vn・審査委員長)
澤 和樹
(Vn・東京藝術大学教授、澤カルテット・東京弦楽合奏団主宰)
上村 昇
(Vc・京都市立芸術大学教授、桐朋学園大学客員教授)
市坪 俊彦
(Vla・東京藝術大学准教授、澤カルテットメンバー)
田中 啓介
(プロデューサー・さくらプラザ館長)

主催 横浜市戸塚区民文化センター さくらプラザ

□賞
【最優秀賞】 表彰状・さくらプラザ主催コンサートに出演
【優秀賞】 表彰状・さくらプラザ主催
ボランティアコンサートに出演
*出場者全組に、審査員の講評を差し上げます。
□応募方法 チラシ・さくらプラザHPをご覧ください。
□募集期間 2014年11月15日(土)～12月28日(日)必着

◆課題・審査基準(全部門共通)
演奏時間:10分
課題:各部門 課題曲1曲と自由曲1曲
審査指標:音楽性、テクニック、アンサンブル性などを総合的に評価。
※課題曲の詳細はチラシ・さくらプラザHPをご覧ください。

SAKURA ONLY KNOWS

北村 朋幹

—演奏をするにあたって心がけている事はありますか?

自分が音楽を続ける理由を考えた時に、或いは演奏するプログラムを決める際の一番の理由として、ある作品から「自分が何かを得ている」という感覚があります。触れているだけで、人生が豊かになるといいますか…誰よりも先ず自分がその感覚を持ち、そして作品に完全に共感できていないと、演奏として成り立たないように思っています。

あとは、やはり自分の出す音に責任を持つ事。音のみで、全てを表現出来る事が理想です。

—子供のころ、どんな音楽を聴いていましたか?

家族に音楽家がいなかったため、興味を持つたものは何もかも自分で調べ、聴き、読んでいました。かなり回り道をしてしまうが、今思えばそれも楽しい経験でしたし、そういった作業は今でも毎日続いているように思います。クラシック以外もよく聴いていますし、中学生の頃から今まで、ラジオを聴くのが大好きです。

—プロを目指そうと思われたきっかけはござりますか?

特にきっかけなどは無いですし、今でもあまり意識してはいないのですが、幼稚園児の頃から「将来はピアニストになりたい」と言っていたようです。非常に、生意気でした。



Tomoki KITAMURA

—今後、どのような演奏がしたいですか?

勿論、具体的な理想はいくらでもあります。たとえば自分の好きなピアニストの演奏会を聴いていると、彼らが究極に成功したといえるような演奏をした時は、本人達も自らの演奏が好きでいるような気がするのです。自分が本当に共感する作品に、自分の好きな演奏をもって触れられたら、どんなに素敵人生だろうと思います。

—戸塚のお客様にメッセージをお願いします。

個人的に、秋や冬の雰囲気は音楽をするのにもっとも適しているように感じています。秋の、一瞬だけ溢れ、次の瞬間にはもう色褪せてしまっているような色彩の儂さは、音が出ては消えていく音楽と、どこか似ているからかもしれません。そんな事を感じながら決めた、個人的にも大好きなプログラムをお楽しみいただけたら幸いです。

(取材:黒澤翔)



北村朋幹(ピアノ)
Tomoki KITAMURA, Piano

1991年愛知県生まれ。2008年第9回シドニー国際ピアノコンクールに入賞。2005年第3回東京音楽コンクール第1位ならびに審査員大賞(全部門共通)を受賞。「東京の夏」音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ、オ・ジャポンなどの出演に加え、これまでに読売日響、東京響、名古屋フィル、シドニー響や国内外の主要オーケストラと共演。愛知県立明和高等学校音楽科を経て東京藝術大学に入学。11年よりベーリング芸術大学に在学し、現在ピアノ科及び古楽科に在籍。ライナー・ベッカー、伊藤恵、エヴァ・ボブウォッカ、ミツィ・マイヤーソンの各氏に師事。

BRUNCH CONCERT

12月1日(月)
Open 11:00 / Start 11:30
プランチコンサート Vol.10

～夢へとつづく晩秋の道～

ベートーヴェン
ピアノソナタ第24番嬰ヘ長調 Op.78 "テレーゼ"
シューマン
8つのノヴェレッテンより第8曲 Op.21-8
ブルームス
幻想曲集 Op.116

◆ 聴きどころ

作曲という行為がどこか架空の森を創造するものだとしたら、演奏会のプログラムというのは、ある場所へ辿り着くためにどの道を通るか、という事なのかもしれない。嬰ヘ長調の特別な響きをまとめたベートーヴェンのソナタで始まる今回の道は、霧の立ち込める中でシューマンが見た一抹の夢を通り、晩年のブルームスが完先もなく書いた、最期の炎へと辿り着く。彼らが灯した光は、晩秋、寂しい誰かの心をそっと照らしてくれる。(北村朋幹)

好評発売中

プランチコンサート Vol.10 / Vol.11 / Vol.12
全席指定(前売/当日)
一般 1,000円 3公演セット券 2,500円

【お問い合わせ】
戸塚区民文化センター
さくらプラザ 045-866-2501



Eve of Festival Girls Music Festival

プレイントとして、前日30日(土)には2月に開催された「第1回ガールズミュージック大会」の上位入賞者によるライブを開催!

ユカリさんの透き通った歌声をバックメンバーが厚いサウンドで支えました。オリジナル曲♪one♪にジーンときたかたも多かったのではないでしょうか!

戸塚在住の最強2ピースバンド「THE LEAPS」の力強いサウンドに会場は歓声! 音圧感で圧倒したパフォーマンスでした。

トリのAQUAMARINEは「第1回ガールズミュージック大会」の優勝バンド! 結成25年を超える、正にベテランバンドで貴重を見せました。ロックサウンドに会場もノリノリ!!

来年1月からTHE LEAPSの新コーナーが決定!

THE LEAPS(ザ・リーブス) 2012年2月29日LEAP DAY(開日)結成。ギターとドラム、そしてツインボーカルというバンドの固定概念を覆すシンプルな編成で、どこか懐かしさを誇るスタイルジックな楽曲は、時には青春時代へ…時には非常日へ…聴く者をタイムリープさせてくれる。2014年1月には初のミニアルバム「ROCK BAND」を全国リリース。年末12月3日にはTHE LEAPS主催イベントが新宿LOFTで開催されるなど、今一番見せない新鋭ガールズ2ピースバンド!

出張! THE LEAPS の行ったるチャン

THE LEAPS

★ 第2回ガールズミュージック大会開催決定!

バンドあり! コーラスあり!
ガールズパワー全開!
さくらプラザホールで
歌ってみませんか!

詳細はチラシ・さくらプラザHPをご覧ください!
ご応募お待ちしております!!

応募締切 —————
2015.1.10. Sat.

出場者大募集

優勝者賞金
50,000円分
の商品券

駆が駆ける

連載
9

フルーツ狩りに行ってきました！編



こんにちは。さくらプラザの渡辺駆です。
今回は新人スタッフ石村と戸塚区影町にある芝口果樹園に行き、フルーツ狩りを体験してきました。戸塚駅からバスで約15分、影取というバス停で降車して歩くこと5分、芝口果樹園に到着しました。

私達が行ったのは9月の初旬で、この時期はブドウと梨を獲ることができます。それでは梨園にいってみましょう！

残暑で外にいるだけで汗をかきますが、一歩入ると涼しい風が吹き、枝からこぼれてくる日差しがとても気持ち良く、癒されました。木の幹が白く塗られているのがわかりますか？（左上写真）これは収穫しても大丈夫な木という印で、他と区別するためにやっているそうです。では速速収穫してみます！

梨の表面がつるつるしているものが獲りごろらしいです。実を枝の上にもっていいくようにするとバキッと簡単に獲ることができます。芝口さんがこれいいよと教えてくださったのは、確かにツルツルしていました。



芝口果樹園の芝口駆さん



こんなにも簡単に収穫はできてしまいますが、果物の生育の難しさを芝口さんはお話ししてくださいました。虫による被害が多く、梨の芯の部分に入り込んで腐らてしまうものや、夜蛾という虫は梨を針で刺して痛ませてしまうそうです。それも大きくて価値の高いものを狙うとか（泣）虫は美味しいものを見分けるのが上手いんですね。それからカラスに悪戯をされたり、ハクビシンという果実を好んで食べる動物に食べられてしまうこともあります。

これだけ多くの天敵から果物を守っているのですね。芝口さんのお話をして聞くまで知りませんでした。生産者の方と直接コミュニケーションができるというのもフルーツ狩りの魅力だと気づきました。スーパーで買っても当然こういうお話を聞くことは出来ません。野菜・果物ひとつとっても、苦労して作っている人がいるという事をこれから忘れないようにしようと思いました。

芝口果樹園
〒245-0064
戸塚区影町146
TEL/045-852-1445
FAX/045-853-2007
URL/
www.s-kajuen.com/

【営業時間】
10:00～16:00
駐車場有り

さっそく持ち帰った梨

食べたところ、その美味しさに驚きました。
なんという瑞々しさ。本当に旨すぎる！

この記事がでるが11月なのでもう梨とブドウの季節は終わっていますが（笑）芝口果樹園では12月初旬まで蜜柑狩りをすることができます！9月の時点ではこんなに青かった蜜柑が食べごろになっていることでしょう。ぜひ、この機会にフルーツ狩りにお出掛けになつてはいかがでしょうか？



いつだったか、こちらで「いろんな仕事の場がある」という話をさせていた
だいたかと存じます。都内の『寄席』いわゆる定席から、老舗のホール落語、各
種地域寄席、飲食店などの落語会、企業や施設に招かれ一席、等々……。各
中で『勉強会』と銘打った会があります。これは多くは小規模で定期的
に催す、自信のないネタや初演を高座にかける噺家にとっての勉強の場とい
う意味での落語会です。

お客様に「こんど勉強会がありますので来てくださいね」と申し上げる
と、「え、『ベンキョウカイ』って何事なの？」どうすればいいのかと聞かれる事
がありますが、ノートやエンピツを持つてくる必要はありません。普通の落語
会、それもあんまり期待しちゃいやよ」というスタンスで気楽に来ていただ
きたい会なのです。若手の場合『独演会』と名乗るのもおかましいような
気がして、通常の落語会でも『勉強会』といふ名称を使つても、まだ勉強中の身の上ですからといふ自戒も
込めて。

『独演会』といつても、我々の業界独特の言い方ですね。一人が主役とほ
きりした会をこう称しておりますが、本来『独演会』といつて、助演（いわゆる
ゲスト）を頼まず自分ひとりだけでタイプの違う三席申し上げてお客様
に満足していただこうというものだったようです。これは、よほどの実力が伴
わないとかならないことですから「まあ、勉強なのでお目にぼし」という
弱氣でこのような名称が生まれたのかもしれません。こう言つてしまふと、

男は背中で物語る戸塚見返親仁



トツカミカエリオヤジ
其之九



商店のご主人など、
戸塚区内で働いているオヤジ世代の後ろ姿から、
何処の何方だろうかと想像してみてのコーナーです。
次号では、見返りボーズで、お顔を公開します。



さくらプラザ 自主事業公演スケジュール

金曜夜8時ベートーヴェンのピアノの調べに酔いしれる
「20時のクラシック」シリーズ

若林顕セルフプロデュース

ベートーヴェンピアノ・ソナタ全32曲

各公演ともに、全席指定 2,000円／ローソンチケット割 1,500円

Vol.4 11/14(金) 20:00

ベートーヴェン
ピアノ・ソナタ第1番Op.1-1
ピアノ・ソナタ第2番Op.10-2
ラフマニノフ：練習曲「音の絵」Op.33全曲

ベートーヴェン
ピアノ・ソナタ第7番Op.1-3
ショパン：ピアノ・ソナタ第3番Op.58

ラフマニノフ：練習曲「音の絵」Op.33全曲

Vol.6 3/20(金) 20:00

ベートーヴェン
ピアノ・ソナタ第1番「悲愴」、第9番、第10番
ショパン：ソナタ第2番、Op.9-2
リスト：ラ・カントネラ

平日の昼下がり、実力派アーティストによる14時からのコンサート

「午後の名曲散歩」シリーズ

Vol.3 西江辰郎～洗練された感性、情熱のヴァイオリン～

11/26(水) 14:00 全席指定 2,000円

出演:西江辰郎(Vn)／菊地裕介(Pf)

ヘンデル:ソナタ Op.1 No.3

サン=サンソン:ヴァイオリンソナタ第1番二短調

クラシッカ:シンボーラン

フランツ・ホーフ、スペイン舞曲

グラズ:ラ・カントネラ

鈴木理恵子 室内楽シリーズ

Vol.1 ヴァイオリン珠玉の名曲集

12/14(日) 15:00 全席指定 3,000円／ペアチケット 5,000円

出演:鈴木理恵子(Vn)／若林顕(Pf)

エルガー:愛の挨拶

モーツアルト:ヴァイオリン・ソナタ第28番小短調KV304

モンティ:チャルダッシュ

ベートーヴェン:ヴァイオリン・ソナタ第9番イ長調Op.47

「クロイツェル」

ほか

Vol.2 ピアノトリオ

2/15(日) 15:00 全席指定 3,000円／ペアチケット 5,000円

出演:鈴木理恵子(Vn)／上村昇(Vc)／若林顕(Pf)

アレンスキイ:ピアノ三重奏曲第1番 二短調Op.32

シューベルト:アヴェマリア、セレナード

メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲第1番 二短調Op.49

ピアノ三重奏曲第1番 二短調Op.49

ほか

さくらプラザ電電子予約
1/20(木) 14:00より

ローソンチケット販売券
さくらプラザ窓口販売は
翌日9:00より

まもなく発売

新春さくらプラザ寄席 “泣く落語”～涙の式 芝浜～

1/24(土) 15:00 全席指定 3,000円 情けにほろり、笑ってからり！

出演:三遊亭 歌之介／橋家 文左衛門／ 笑って笑ってほろりとくる

柳家 小せん／伊藤 夢葉 江戸人情噺の傑作をお届けします。

**さくらプラザ電電子予約
申込締切:2014.11.30(日)必着**

申込方法はチラシ・さくらプラザHPを
ご覧ください。

*申込み多数の場合には抽選

*先行予約で完売した場合は、2015年2月14日(土) 14:00
からローソンチケットにて一般チケットのみ発売

第2回 Girls Music Festival (本選)

3/14(土) 13:00 入場無料

審査員:富田京子(元プリンセスプリンセス)

衛藤 浩一(THE GOOD-BYE ドラム)

ほか

予選を通過したガールズグループの公開ライブ

審査を行います。当日は第1回GMF優勝バンド

AQUAMARINEのスペシャルライブも開催！



出演者・曲目などは変更になる場合がございます、あらかじめご了承ください。

Vol.8



ご予約・お問合せは **TEL: 045-866-2501**
戸塚区民文化センター さくらプラザ

〒244-0003 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町16-17 FAX: 045-866-2502

<http://www.totsuka.hall-info.jp> MAIL: event@totsuka.hall-info.jp

編集・発行: 戸塚区民文化センター さくらプラザ

指定管理者: アートフレックス戸塚株式会社

運営企業: 株式会社 共立